

タイ北部チェンライの子ども達

～山間の少数民族が通う学校風景から～

バンコク日本人学校 教諭 竹田朋彦

タイ国チェンライ空港から北部へ向かい、4WDで1時間少々(道中は舗装されていない。)周囲には田園風景が広がってのどかである。2期作～3期作で稲作が行われている。



ミャンマーやラオスとのメコン川を挟む国境(ゴールデンライアングル)からも遠くない、ここバーンポングナムローン校はドイハング山にある少数民族の学校である。



幼稚園児30名、小学生60名、中学生40名の計130名が山間から通っている。タイ国政府からの支援だけでは教材などは十分ではない。教職員の工夫で教具なども修理している。



学校にあるボールなどは様々な国のNGOなどからの援助によるものがほとんどである。この少年は吹き戻し(日本のおもちゃ)を持っている。どの子も助け合って仲良く遊んでいる。また、教室や運動場でも裸足で過ごす子が多い。



タイ王国の学校のため敬愛する王様の写真を全面に掲示している。少数民族は多くがミャンマー・ラオス・中国雲南省などからの移民で、中には台湾系(国民党員の流れ)を持つ子もいる。文化的につながりの深い中国語も授業で扱っていることが板書から伺える。



校内の掲示物(薬物の害を幼年時から教育している)。山地民の間では伝統的に麻薬栽培が盛んであり、かつて国民党の資金源ともなり、アヘンの利益によりタイ・ラオス・ミャンマーの三国が接する地域はゴールデンライアングルと呼ばれた。しかし、近代化の中でアヘンによる収入源を失い、地域の貧困化に拍車がかかり、今も麻薬やエイズなどに苦しむ人が多い。



世界の貧困はどうすれば減らせるか？

《本写真資料の活用について》

- ・ 近年東南アジア諸国でも経済発展が目覚ましいタイ王国。自動車や各種工業製品の日本企業の現地工場も多く、日本へ輸出する水産物（養殖の海老や加工品）などの食の面でも日本と関わりが深いタイ。日本を始めとする先進国のODAによりインフラ整備も進み大都市となったバンコクと対照の山間部の少数民族の生活。そこに焦点を当てて、生活と密接に関わる薬物の問題や貧困の問題について意識を高める資料としたい。

《本資料を用いた授業などでの主なねらい》

- ・ 日本の生活ではなかなか気づきにくい、貧困の原因となる歴史的、民族的、制度的な背景について問題意識を高め、その解決に向けて世界的にどのような取り組みがなされているか、またどのような可能性があるかを共感的に考え、国際的な視野を育てる学習の導入資料としたい。